

TAKE FREE
ご自由にお持ちください

広報誌

NADOLIVE

2024 vol.07

NADOLIVE

ナドリーブ

理念

私たちは全人的医療を目指します

いつでも患者さんの立場に立って医療を行います

先進技術を導入し、適切な医療を実施するように努力します

救急医療を中心に予防医学にも力を注ぎ、医療のあらゆる分野に全力を尽くします

[基本方針]

- 1 患者さんの権利を尊重し、患者さんの信頼と満足が得られるような医療を行うように努めます
- 2 救急医療、急性期医療を当院の使命と考え、救急患者さんは小児から高齢者まですべて受け入れます
- 3 予防医学から在宅医療、高齢者福祉・介護まで、地域に密着した包括的医療を目指します
- 4 地域医療機関や施設との機能分担や連携を図り、救急病院としての機能と責務を果たすよう努力します
- 5 高度な医療と安らげる環境を提供するために、職員の教育と研修に努めます



表紙イラスト 与儀勝之「世界樹」

Contents

特集
1

診療科紹介
内科

特集
2

診療科紹介
MIS 足の外科センター

薬剤部紹介 / おしごと紹介「WOC ってご存知ですか？」
免疫について / information / 新入職医師の紹介
FACE (脳外科) / PICK UP!

社会医療法人社団蛸水会

名戸ヶ谷病院

Access



発行日：2024年12月
発行：名戸ヶ谷病院

- 電車の場合
東武アーバンパークライン（野田線）新柏駅より徒歩約7分
- 電車とバスの場合
JR 柏駅東口 5 番バス乗り場 東武バス 新柏駅行に乗りし、新柏住宅でお降りください。新柏住宅の裏が名戸ヶ谷病院になります。
- 無料巡回バスも運行しています
ルート内であれば、乗り降りは自由な場所で行っていただけます。
詳しくは、ホームページをご覧ください。



社会医療法人社団蛸水会 名戸ヶ谷病院

〒277-0084 千葉県柏市新柏2-1-1
TEL.04-7167-8336 (代表)
<https://www.nadogaya.com>



内科

特集
1

専門性から総合力へ 変化した内科診療のあり方に つなぎ目のない医療で対応

内科の最大の特徴は、疾患ごとに専門分野を細分化していないことです。今回は、間口を広くさまざまな患者さんを受け入れる診療体制の強みをご紹介します。

また、この冬を健康に乗り切るためのドクターからのアドバイスも！
参考に見てみてください。



内科 小林 幸夫

内科疾患を総合的に診療 地域医療との連携も円滑に

緊急対応を的確に行える医療チームであること——それが名戸ヶ谷病院の内科が担う役割の第一義です。その実現のため、内科疾患の複合的な診療に取り組んでいます。具体的には、疾患ごとに専門を細分化するのではなく、全医師が連携しながら、肺炎、感染症、糖尿病、循環器疾患、老年期医療、内分泌疾患などを総合的に対応。他病院では受け入れが難しい事例も、間口を広く可能な限り受け入れることができると体制を整えています。

急性期病院として、重症もしくは緊急度が高い患者さんの容態を安定させることはもちろんですが、同時に重視をしているのが、地域医療機関・かかりつけ医への連携をスムーズに行うことです。患者さんが1日でも早く日常の生活を取り戻せるよう、院内にはソーシャルワーカーがスタッフとして常駐。入院治療から訪問診療もしくは、地域医療への移行が円滑にできるようにサポートしています。もし、名戸ヶ谷

今後求められる内科の姿 困ったときの窓口的存在に

現在もすでに社会は高齢化していますが、その傾向は今後もとどまることはないでしょう。その影響は合併症の増加へとつながり、医療の現場は今以上につなぎ目のない網羅的な診療力や治療方法、投薬計画が求められます。だからこそ私たちは、「困ったときの窓口」としてどんな患者さんでも受け入れ、対応できる存在でありたいと思います。体制の強化を急いでいます。

のが、変化しています。従来は疾病ごとに細分化した専門医への受診が一般的でした。しかし今、医療で大切なのは、「コモンディーズ」と呼ばれる日常的な不調を見逃さないことです。かぜ症状や腹痛、発熱、下痢といった誰でも遭遇しうる症状に隠れている疾患を発見・診断し、的確な処置を早期に開始することが質の高い治療につながるためです。患者さんの初動治療に携わる医療機関としての役割を担うためにも、医師・看護師で連携し幅広く対応できるように日々取り組んでいます。

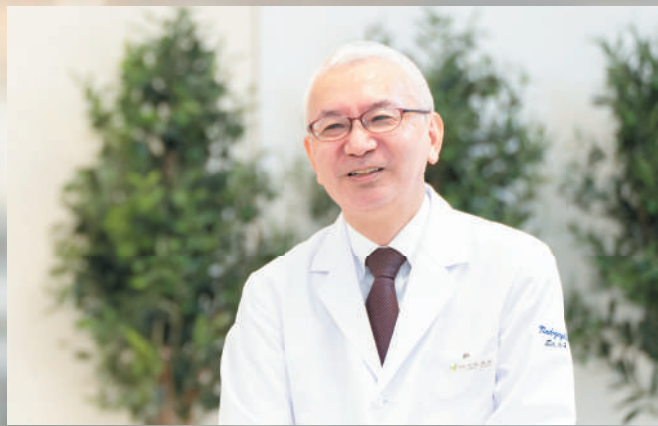
的確な診断と適切な指導 生活習慣病の伴走者

また、生活習慣病の改善への取り組みに力を入れていることも、特徴のひとつです。高血圧や糖尿病、高脂血症、心不全、肺炎などは、高齢社会である今となつては、誰もがかかりうる病気と言っても過言ではありません。しかし一方で、生活習慣病は自分の意識と行動次第で症状をコントロールできる病気です。投薬治療だけに頼ってはいけません。改善が難しい面がありますが、生活習慣

を見直すことがその後の生活の質に大きく影響します。そのため、名戸ヶ谷病院では栄養士がいて、食事に指導を行い、生活習慣の改善をサポート。患者さんの中には、きちんと指導通りに適度な運動と食事管理を行い、重度の脂肪肝が正常に戻ったという方もいらっしゃいます。患者さんが私たちの指導に前向きに取り組んでいただけるよう、分かりやすい説明を心がけています。

健康のためのアドバイス 冬はコロナ感染症対策を

冬が深まり、体調管理がより大切になる季節です。感染症などが流行する可能性も増えてくるので、みなさんにはぜひコロナウイルス感染症に注意をしていただきたいです。5類感染症へと移行していますが、コロナウイルス感染症の脅威は決して終わっていません。コロナ感染から誤嚥性肺炎などを合併することもあり、特に高齢者は油断大敵です。マスクの徹底や手指の消毒などの予防対策を継続して、健康にこの冬を乗り切ってください。と思います。



病院での入院治療開始時にかかりつけ医がなくても、ご家族と話し合いを進めながら、どういう施設が適しているか、あるいは受け入れ可能かなどを退院までにきちんと調整できる点は、当院の特徴であり強みでもあります。

日常の不調の陰に潜んだ 病気を見つけ出す役割も

近年、内科診療に求められるも



小林 幸夫
(こばやし ゆきお)
内科

【座右の銘】
誠実

【専門医・認定医等保有資格】

- ・総合内科専門医
- ・総合診療特任指導医
- ・血液専門医
- ・がん薬物療法専門医

【出身大学】
東京大学

倉茂先生への

Q&A



8月にイギリスから来院された David Gordon先生とともに

Q.1 足の外科を目指したきっかけや理由はなんですか

整形外科医として20年ほど働き、一通りの経験をしたと思って振り返ったときに、知識や経験が少ない分野は何かを考えました。それが足の外科でした。当時、日本では本もろくに出版されておらず、エキスパートも少ない状態で、逆に残りの医師人生をかけて学び甲斐がある分野だと思い、目指すようになりました。

Q.2 もっともやりがいを感じる時はどんなときですか

他院で診断がつかなかったり、治療法はないと言われてしまった患者さんに、適切な診断と治療法をご提示できたときです。苦勞して学んだ最小侵襲手術MISで治療でき、良い結果が得られたときは、さらにうれしいです。

Q.3 患者さんとのコミュニケーションで大切にしていることはなんですか

適切な診断のためには、症状についてよくお話をうかがうこと、触診や画像を含めた詳細な診察をすることが大事です。また、治療法のメリット・デメリットを十分理解していただいた上で、治療法を選択していただくことも大事です。なので、どうしても一人一人に時間がかかり、外来でお待たせしてしまうのが心苦しいのですが、ご理解いただければと思います。

Q.4 休日は何をして過ごしていますか

現在、家族の都合で主夫のため、買物、食事の準備、洗濯をしています。掃除は思い立ったときだけです(笑)。それ以外は、今後の手術に向けて作図をしたり、論文を読んだりしています。あとは、映画鑑賞や読書をしています。

Q.5 足の病変や悩みを抱える方にメッセージをお願いします

足趾の変形については、保存治療で改善しない場合は手術が有効なことが多く、近年は最小侵襲手術MISの適応範囲が広がったので、以前よりも術後の負担が少なくなりました。痛みやしびれについては、腰椎や糖尿病などが原因であることも多く、足の外科の疾患でない場合には、当該科への受診をお勧めさせていただいております。

特集 2

診療科紹介

MIS 足の外科センター



10月にアルゼンチンから Sofia Carlucci先生が手術見学

倉茂 聡徳 整形外科

足の病変や変形などにより痛みや運動制限が生じてしまうと、生活の質が著しく低下します。日常生活を支える重要な「足」だからこそ、目指したいのは体に負担の少ない治療。様々な足の疾患でお困りの方に、適切な診断と「MIS治療」をはじめとした最新の治療法を提供する「足の外科センター」について、倉茂 聡徳先生にお伺いしました。

※MISとはなんですか

「最小侵襲手術」のことです。侵襲とは、医学用語で生体を傷つけることを意味します。つまり、皮膚の切開など手術によって起こる体の負担を、できるだけ軽く抑えようとする手術法です。アメリカでうまれてヨーロッパで発展したのち、近年は世界に広がりを見せています。私はスペインやイギリスで足のMISの講習を受け、2010年に日本に導入しました。

— どのような特徴があるのでしょうか

およそ4〜5mmの小さな切開を組み合わせて、足の指(足趾)の変形に対応するものなので、従来の方法と比べて術後の疼痛や合併症が少ないのが特徴です。また早期からリハビリ

を開始することも可能です。図1〜4のいずれの例も、手術当日からサンダル型の装具をつけてベタ足で歩行を開始し、数日で退院しています。

— どのような症状に行う手術ですか

現在では、足の指の変形に対して治療を行う場合、最初に選択する方法になっています。具体的には、外反母趾、内反小趾、強剛母趾、槌趾、ハンマー趾、MTP関節(垂)脱臼、中足痛症、カーリー趾、内転中足、変形性リウマチ、有痛性跖骨、種子骨障害、骨折後の変形治療、リウマチ足などです。最近では、国内外の医師が手術を見学に来られています。

— 対象は、指まわりの疾患のみですか

いいえ、中・後足部の疾患についても、一部ですが適応できるようになっています。ただ、しばらく体重をかけることができなかったり、踵に荷重を置くような靴型の装具を用いたり、術後のリハビリがやや異なります。

— MISはどんな症状にも有効ですか

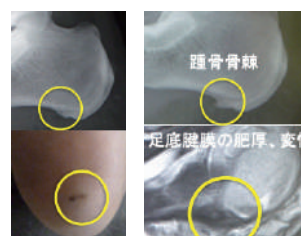
その矯正力には限界があり、従来の手術法が適している場合もあります。しかし、可能な範囲でMISを併用し、できるだけ体を傷つけない治療を心がけています。

※minimally invasive surgeryの略

詳しくは病院ホームページ (<https://www.nadogaya-s-eikeigeka.com/new-mis>) 足の外科センター-足の外科とは、または下記のQRコードから直接、MIS足の外科センターのホームページをご覧ください。



図7



足底腱膜炎の例。ほとんどが保存治療で治癒するが、まれに手術が必要な場合があり、この例では踵を数mm切開し、足底腱膜切離と骨棘切除を行った。

図6



扁平足に対し、1cm程度の切開で踵骨の骨切りを行った例。また、踵からスクリューを入れるため1cm切開している。この例では後脛骨筋腱断裂もあり、従来の手術法と併用。

図5



変形性リスフラン関節症と外反母趾を同時に手術した例。リスフラン関節には、2cmの切開で骨盤から取り出した骨をリスフラン関節固定部に移植する固定術を、外反母趾にはMIS Lapidus変法を行った。

図4



有痛性趾間胼胝の例。この例では、術後にサンダル型装具は使用していない。

図3



第2趾のハンマー趾変形を、外反母趾と同時に矯正した例(術創写真は他の症例)。

図2



強剛母趾に対して関節縁切除と基節骨背屈骨切りを行った例。

図1



外反母趾に対し第3世代MIS手技による矯正と、内反小趾の矯正を同時に行った例。



薬剤師(新卒1年生)
Mさん

Q.病院薬剤師として、患者さんとのように関わることができていますか？

A.患者指導では使用薬剤の説明を行い、薬物治療への不安をできるだけ取り除くことを心がけています。指導の中で得た情報で、医師や看護師などに共有すべきことの共有を行い、患者さんにより良い薬物治療を受けてもらえることを目標にしています。

Q.名戸ヶ谷病院で働く魅力を一言でお願いします

A.入職一年目から調剤業務をはじめ、抗がん剤調製や無菌混注、患者指導など様々な業務に取り組めるところです。



認定薬剤師

2024年9月現在、薬剤部では常勤薬剤師10名、パート、事務が勤務しております。

- 日病薬病院薬学認定薬剤師 4名
- 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 3名
- 認定実務実習指導薬剤師 2名
- 日本糖尿病療養指導士 2名
- 千葉県糖尿病療養指導士 3名
- POS医療認定士 1名
- NST専門療養士 1名

診療支援部門紹介

医療を支える 薬剤部

薬剤部では薬物治療に責任のある立場として、積極的に地域医療に貢献する薬剤師を目指して努力しています。また認定や専門薬剤師の資格取得にも力を入れており、様々な病態の患者さんに対応できるよう日々研鑽に励んでいます。



「業務内容」

薬剤部では、より良い薬物治療を提供するために調剤業務、注射・無菌調製業務をはじめ、薬剤管理指導業務、委員会活動など多岐にわたる業務を行っています。調剤業務では主に入院患者の処方箋調剤を行います。電子カルテより薬剤服用歴や検査値など患者情報を収集し、処方に対して疑問点があれば医師に確認したうえで調剤を行います。薬局には電子カルテ・オーダーリングシステムが導入されており、処方オーダーに連動して錠剤・散剤分包機、監査システムが稼働しているため、薬剤師はより安全・正確に調剤を実施できるようなっています。

注射・無菌調製業務では処方内容・配合変化・相互作用などを確認した後、入院患者の注射薬を個人セットで病棟に払い出しています。

薬局内の無菌室にはクリーンベンチと安全キャビネットが完備されているため、高カロリ輸液や化学療法剤の調製も行っています。特に化学療法剤に関しては、レジメンや投与スケジュール、投与量の確認、また患者さんのところに伺い体調や副作用のチェックを行うことでより安全な化学療法が行えるよう努めています。

薬剤管理指導業務では、薬剤師が直接ベッドサイドに行き、処方されている薬剤の効果や副作用、服薬上の注意事項を説明します。また患者さんからの医薬品に対する悩みや疑問にお答えすることで、自身の医薬品に対する理解を深めていた

だき、積極的な薬物治療に繋がるようサポートしています。指導を通じて得られた情報は医師や看護師と共有し、より安全で適切な治療を提供できるようチーム医療の一員としても活動しています。また薬剤管理指導業務では、入院前から服用していた医薬品を把握することや、入院後に処方された医薬品との飲み合わせによる副作用の回避を目的に持参薬の鑑別を行っています。

多職種連携にも積極的に取り組んでおり、AST、ICT、NST、OLS、回診等の委員会活動にも参加しています。委員会への参加が希望する認定薬剤師の条件になっている場合は、条件が満たされるよう考慮し、スペシャリストの育成に力を注いでいます。特にOLSに関しては認定取得に際して院内の支援制度があります。

「活動」

薬剤部では新人教育の一環として、業務の中で興味を持ったことに対して研究を行い、毎年日本病院薬剤師会関東ブロックの学術大会で発表を行います。

また薬学部5年生を対象に実務実習生の受け入れを行っています。(2024年2期7名、3期6名、4期4名、受け入れ予定)将来的に臨床の現場で活躍したいと感じていただけるよう、実際に薬剤師の業務を経験していただき、病院薬剤師として必要なスキルや他職種とのかわりを11週間指導します。

WOCってご存知ですか？

おしごと紹介 皮膚・排泄ケア 認定看護師

皮膚・排泄ケア認定看護師は、WOCナースとも言われており、創傷(Wound)、人工肛門・人工膀胱(Ostomy)、排泄(Continence)ケアを専門にかかわる看護師です。スキンケアと排泄ケアは看護の基本であり、日常的で身近なケアだからこそ奥が深く、人々の皮膚の健康を保つことと排泄の尊厳をまもるために日々活動しています。現在は主

に、褥瘡管理者として、褥瘡発生ゼロ・早期治癒を目指して、褥瘡対策チームの多職種スタッフと協働して、専門的なケアの提供に取り組んでいます。今後は、WOCケアの看護外来を開設して、退院後も安心して日常生活を過ごすことができるように、患者さんやその家族に寄り添い、サポートしていきたいと思っています。



社会医療法人社団 蛍水会 名戸ヶ谷病院
地域医療支援センターのご紹介

当院地域医療支援センターは、地域連携室と医療相談室があり、地域連携室は医療連携推進を目的とした医療機関からの紹介患者さんを対象としており、紹介状をお持ちの患者さんや地域医療機関の窓口として設置しております。

当院は紹介受診重点医療機関に指定されており、地域医療機関からの紹介患者さんを積極的に受け入れし、また、当院で治療が落ち着いた患者さんの継続加療は速やかに地域医療機関の先生にご紹介させていただき、地域の中での役割分担を推進していくことを使命としております。

地域連携室には、医療対話推進者研修終了者も在籍しておりますので、お気軽にご相談ください。

医療相談室は、社会福祉士および看護師を配置し、通院や入院加療中の患者さんやご家族の社会的、心理的問題について援助相談業務を行っております。また、退院調整は在宅療養や他の医療機関への



転院などの情報提供やサービス調整などを行っております。

近年における医療情勢の変化の中で診療報酬改定や社会保障制度の改定など、加療による費用や心理的不安を抱える方々は年々増加していると思います。そういった方々、患者さん、ご家族の抱える不安や悩み、問題解決のための支援を行うと同時に、地域医療機関からの入院や受診要請に速やかに対応し、お受け入れできるよう、センターとして地域の皆様のために努力して参ります。

地域医療支援センター長 國府 幸洋
副センター長 高橋 厚志



アリオ柏内科クリニック

細かな健康不安にも耳を傾ける“よろず診療”
総合病院との連携で地域ぐるみの医療を実現

Q.貴院の特徴を教えてください

A.2024年5月1日に、セブンパークアリオ柏2階に開院しました。大型ショッピングモール内にあるため、施設に来館した方の急な体調異変に対応するなど、様々なことが起こります。暑い日が続いた8月は熱中症で倒れる方が多く、救急車で搬送するケースもありました。また、頭痛で受診された患者さんでCT検査が必要な場合は、他院を紹介するなどしています。

専門は内科・小児科ですが、整形外科領域など幅広い診療科目に対応しており、必要に応じて名戸ヶ谷病院に紹介することもあります。

Q.先生は日本登山医学会専門医ですが、山岳医について教えてください

A.山岳医は、プライマリ・ケア(総合診療)を行います。具体的には、下山が必要か判断し、場合によってはヘリコプターを呼んだり、自力で降りられる方には下山後に受診を指導したり。そのため、山登りができることはもちろん、高山病や山で起こりうることへの知識が

必要です。私自身、休日には山登りをしていて、かなりの難所に行くこともあります。登山中に困っている方がいたら声をかけますし、最近は遭難も多いので「この先は気をつけてください」とアドバイスすることもあります。

Q.先生が考える地域連携医療とは?

A.地域連携医療を進める上では、クリニックと総合病院の役割分担が重要だと考えます。クリニックが担うべきは、患者さんの困りごとに気づき、話を聞き、必要な支援につなげること。生活背景も含めて診療し、例えばカテーテル治療などのように、クリニックでは対応できない疾病は総合病院に紹介します。クリニックで対応できることもある発熱診療などは、ある程度の疑わしき疾患を取り除き、除外できなかったものを総合病院で診るなど連携しています。その場合、紹介状にはできるだけ詳細な情報を記載するよう心掛けています。

地域連携医療は、可能な限り柏市内の医療機関で完結できることが理想です。緊急医療に力を入れている名戸ヶ谷病院には、「名戸ヶ谷病院=緊急」という地域の方のイメージに応えるべく、積極的に患者さんの受け入れを願っていますね。

Q.クリニックの院長先生は楽しいですか?

A.楽しいです(笑)!クリニックはよろず診療なので、患者さんと他愛のない話ができてことが魅力です。それは総合病院にはないやりがいがあります。当院では、患者さんのお話にきちんと耳を傾けることをモットーにしています。患者さんのメリットを第一に診療しているので、診療の専門科目を気にすることなく包み隠さずなんでもお話いただき、気軽にご相談ください!



免疫について

内科
小林 俊昭

東京大学(2013年卒)

【専門医・認定医など保有資格】
総合内科専門医・指導医、認定内科医、リウマチ専門医・指導医、認定ソノグラファー、日本病院総合診療医学会認定医・特任指導医

皆さん「免疫(めんえき)」と効いて何思い浮かべるでしょうか?言葉の成り立ちが文字通り、「疫(えき)から免(まぬ)がれる」となっており、細菌やウイルスなど外敵から体を守ってくれるためのシステムです。一例として白血球があり、常に体中を巡っており、侵入してきた外敵と戦う軍隊の役割をしています。今回はこの「免疫」という言葉をキーワードにお話させていただきます。

肺炎などの細菌感染症の治療として「抗生物質」が処方されます(一般に「抗生物質」と呼ばれる薬は、実際には「細菌」に対する薬であるので、医師は「抗菌薬」と呼ぶことが多いです)。「抗菌薬」は「細菌」の増殖を抑える働きをしており、薬が当たれば劇的に効きますが、最後に細菌を排除して病原体との戦いに打ち勝つのは人間の「免疫システム」です。この「免疫力」は加齢や悪性腫瘍や特殊な薬剤など様々な要因で低下します。免疫力が低下すると、様々な病原体の感染症に「罹りやすく」「重症化しやすく」「治りにくく」なります。様々な菌に対する薬が揃う現代では「感染症が治りにくい」原因は、患者さんの免疫力低下による要素も大きいです。

「パルス」に感染するヒト免疫不全(HIV)ウイルスのために、免疫力が落ちて様々な感染症が問題となる「後天性免疫不全症候群(AIDS:エイズ)」があります。

また、自己免疫性疾患と呼ばれる疾患群があります。これらは、「外敵から身を守るための免疫システムが自分を攻撃してしまうこと」で生じる疾患です。代表的な疾患に「関節リウマチ」があります。手や足など全身の関節が免疫システムの暴走のために腫れて炎症を起こして、壊れていく病気で、関節炎はとても痛いだけではなく、一度壊れてしまった関節や周囲の骨は元に戻すことはできません。

関節リウマチはかつては有効な治療薬の選択が少なかったのですが、1998年に内服の免疫抑制薬であるメトトレキサート、2003年に最初の生物製剤であるレミケードが登場してから、たくさんの薬剤が開発されています。メトトレキサートは現代でもおいても関節リウマチ治療の第一選択薬であり、生物製剤という関節リウマチ特異的な治療薬は4系統14種類もあります(後発品は除く)。この中から患者さんごとに有効な治療薬を選んでいくのです。

関節リウマチは自己免疫性疾患の治療ではステロイドという薬剤を使います。免疫全般を確実に抑えたり、炎症を抑えたりする薬剤であり、その劇的な効果や独特の副作用

から怖さを感じる方も多いかもしれませんが、しかし、現代においても関節リウマチの関節炎の症状を急速にとるなど活躍の場面の多い薬剤です。功罪を知り上手にステロイドを使う専門家が、我々関節リウマチやその他自己免疫性疾患を診療する医師なのです。

当院には内科系で関節リウマチや自己免疫性疾患を診る私と、整形外科で関節リウマチの診療および関節リウマチの患者さんで起こり得る合併症や手術までをトータルサポートできる体制となっております。また、内科系では関節リウマチの他、シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、顕微鏡的多発血管炎、高安動脈炎など各種血管炎、ベーチェット病、成人スチル病など1つ1つは希少であり聞き馴染みがないものの、免疫に関わる疾患を20以上専門的に診療することができま

す。私は柏市で生まれ育ち、名戸ヶ谷病院で医師のキャリアを開始して、この領域の専門研修をして今年7年ぶりに復帰しました。今後自己免疫疾患を柏という地域で完結して診療できる体制づくりを名戸ヶ谷病院で進めてまいります。お困りごとは気軽に相談下さい。



織茂 由香里 (おりも ゆかり)
 歯科口腔外科
 日本大学(2017年卒)

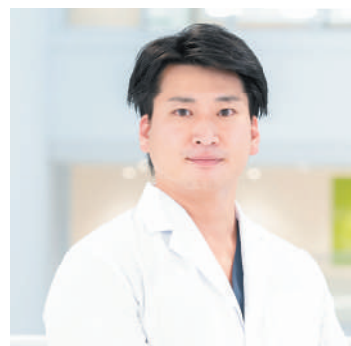
主に入院中の病棟や関連病院、施設への訪問歯科診療を担当させていただいております。お口の中で何か気になることがございましたらお気軽にご相談ください。患者様のお役に立てるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



吉富 健 (よしとみ たけし)
 リハビリテーション科
 熊本大学(1982年卒)

座右の銘：温良恭儉
 今までの知識・経験を活かし、医療スタッフと協力してなるべく質の高いリハビリを提供して、患者さんが在宅復帰できるように努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【専門医・認定医など保有資格】
 日本専門医医療機構・整形外科専門医、
 日本リハビリテーション医学会認定臨床医、
 義肢装具等適合判定医



丸杉 貴世馬 (まるすぎ きよま)
 整形外科
 鹿児島大学(2022年卒)

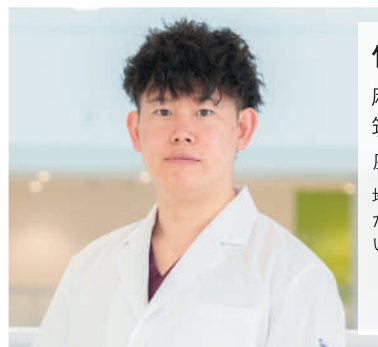
座右の銘：人にやさしく
 One for All, All for bone. 名戸ヶ谷病院で学んだ2年間の経験を活かし、謙虚さを忘れず、より広い視点で患者さんを診察できるように精進して参ります。



小林 俊昭 (こばやし としあき)
 内科
 東京大学(2013年卒)

柏の南部の生まれ育ちであり、名戸ヶ谷病院で医師のキャリアを始め、このたび7年3か月ぶりに名戸ヶ谷病院に復帰しました。業で管理できる疾患は何でも診療できる内科医として「病気よりもヒトを診る」ことを目標に日々精進しています。

【専門医・認定医など保有資格】
 総合内科専門医・指導医、認定内科医、
 リウマチ専門医・指導医、認定ソノグラファー、
 日本病院総合診療医学会認定医・特任指導医



竹中 享利 (たけなか へんり)
 麻酔科
 筑波大学(2021年卒)

座右の銘：私の顔も三度まで
 地域の皆様と医療の架け橋になればと思います。ぜひ手術でお会いしましょう



朝比奈 祐一 (あさひな ゆういち)
 眼科
 東京大学(2014年卒)

座右の銘：幸運
 適切な医療を提供できるよう努めま
 す。どうぞよろしくお願いいたします。

【専門医・認定医など保有資格】
 眼科専門医、医学博士(東京大学)



畠中 駿輔 (はたけなか しゅんすけ)
 脳神経外科
 防衛医科大学(2022年卒)

座右の銘：早起き
 誠心誠意対応させていただきます。
 よろしく願います。



山下 壽仁亜 (やました じゅにあ)
 脳神経外科
 大阪市立大学(2022年卒)

座右の銘：塞翁が馬
 何かお困りのことがあればお気軽にご相談ください。

PICK UP!

名戸ヶ谷記念病院開院!

社会医療法人社団蛸水会 名戸ヶ谷記念病院は、脳卒中や骨折などで急性期治療を受けた患者様を早期段階で受け入れ、集中的なリハビリテーションで機能回復を目指す『回復期リハビリテーション病棟』50床と、急性期病院での治療は終了するも、すぐには在宅療養や施設に移行するには不安をお持ちの患者様を受け入れ、安心してご自宅や施設で暮らせるまで支援する『地域包括ケア病棟』50床からなる病院です。
 上記の入院機能に加え、外来診療・訪問診療／看護・訪問リハビリテーション／マッサージ・居宅介護支援事業所を院内に併設し、地域の皆様の健康と生活を幅広く、総合的にサポート致します。



PICK UP!

救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞しました

令和6年9月9日(月曜日)に、本年度の救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞いたしました。この表彰は、厚生労働大臣が、都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域の救急医療の確保や救急医療対策の推進に貢献した個人や団体、医療機関に贈られるものです。本年度は救急医療に貢献した当院など11医療機関のほか、個人24名と2団体が受賞しました。
 名戸ヶ谷病院は、40数年間にわたり救急医療に従事し、数多くの命を救うために日夜努力を続けてまいりました。その実績が認められ、今回の受賞に至りました。
 今後も、地域の皆様の安心と安全を守るため、救急医療の現場で力を尽くしてまいります。



FACE

[三叉神経痛・顔面痙攣治療への取り組み]

脳外科

三叉神経痛・顔面痙攣は多くの患者さんが罹っている疾患であるため、昨年度より当科は外科的治療の体制を強化いたしました。

外科的治療が必要となった場合、MRI等の画像検査での診断をしますが、最も重視しているのは症状の経過や神経学的な診察です。その診察に画像での所見を加えて評価することで、より確実な診断を行います。これらの疾患に関して、一般的なMRI診断では神経と血管の接触の有無の判断しかできませんが、当科では3Dの立体画像を用いて、実際の手術で見える神経と血管の位置関係を手術前に把握し、綿密な手術計画を立てます。

事前の手術計画により無駄な手術操作がなく、2cm程度のみ開頭する鍵穴手術を行うことが可能です。また、不必要に脳や神経を触ることもなく、手術時間が短縮します。皮膚や筋肉を切開する部位も最小限となるため、患者さんへの負担が少なく、手術後の回復もスムーズで、最短2〜3日での退院が可能です。また、当科では顔面痙攣に対し、外科的治療以外にボトックス注射をご選択いただくことも可能です。症状がある場合には一度ご受診いただき、ご相談ください。お一人おひとりに合わせた最適な治療方法を提案いたします。

